



ライティングセンターを開設しました

将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」の長期戦略テーマ「学修支援の充実」の政策の一つとして、関西学院大学ライティングセンターが2020年4月1日に、教務機構のもとに設置されました。

2020年度より、大学生向けに「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」、大学院生向けに「論文執筆のためのアカデミックライティング」という授業を開講しています。

2021年度からは、西宮上ヶ原キャンパスの大学図書館で「対面指導」を開始しました。対面指導とは、ライティングセンター専属のスタッフや、本学大学院生の教育指導員から1対1でライティング支援・指導を受けることが可能なサービスです。

「ライティング科目の運営」と「対面指導」という2つのアプローチから、学生の「書く力」を養成し、論理的思考力や表現能力を身に付けた「自立した書き手」を育成します。

今回は特に「対面指導」に焦点を当て、ライティングセンターを利用する学生の実態や、利用状況について紹介していきます。



授業科目

レポートや論文を執筆する際に必要となる、基礎的な知識・技能を習得することに重点を置いています。「文章を書き、受講生同士でのピアレビューの内容を参考に、書いた文章を修正する」という実習形式の活動を繰り返します。

【大学生対象】

スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）

【大学院生対象】

論文執筆のためのアカデミックライティング

▼ 授業内での指導の様子



対面指導

ライティングセンターの教育指導員として採用された本学大学院生から、1対1でアドバイス（セッション）を受けることができます。セッションは1回あたり45分間です。どうすれば書き手の考えが的確に伝わって分かりやすい文章になるかを、書き手自身が気づいて修正できるよう、対話を通じた支援を行ないます。教育指導員が一方向的に修正する「添削」は行ないません。

教育指導員は、ライティングセンター専任教員によるライティング支援方法に関する研修を受講し、教育指導員としての研鑽を重ねながら、ライティングの相談に応じています。

▼ 対面指導のイメージ（2021年11月現在はオンライン対応中）



対面指導で行なっていること

「自立した書き手を育てる」ことを目指して

ライティングセンターでは、「自立した書き手を育てる」ことを目指しています。書き手の意思を尊重し、書き手が自分で文章の修正箇所に気づき、修正できるよう支援を行っています。対面指導では、教育指導員が「このように書けばいい」と一方的に修正することはしません。

セッションでは、利用学生が自身で考えを整理し、文章を修正できるようになるために、例えば、「どのようなことを主張したいのか」「どのような考えを大切にしているのか」などオープンな質問を投げかけ、利用学生の考えを引き出すことを重視しています。

相談対象は、主に授業のリポート課題や卒業論文などアカデミックな文章で、主に以下の事項について指導を行っています。

構成

パラグラフライティングができているか、序論・本論・結論の構成になっているか、タイトル・章・節の見出しは適切か、引用の仕方は適切か、ウィキペディアやネット記事からの引用はせずデータの信頼性を保つことができているか など

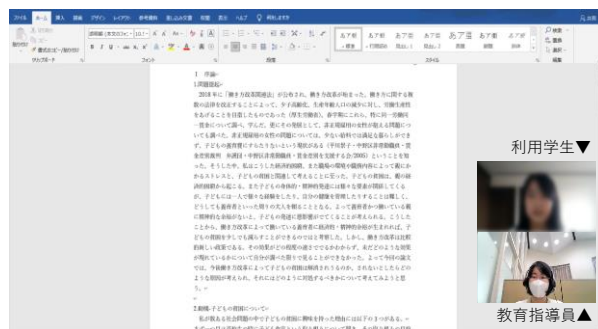
内容

主張や立場は明確か、主張・根拠・具体例は明確か、参考文献の書き方は適切か など
※内容が正しいかなど、各授業や研究の専門性に踏み込むような指導は行なっていません。

表現

一文一義の文章になっているか、キーワードにブレはないか など

2021年11月現在、新型コロナウイルス感染防止のため、対面指導は原則オンラインで行なっています。ライティングセンターにいる教育指導員と利用学生とをZoomでつなぎ、資料を共有しながら進めています。物理的な距離は離れていますが、対面指導を通して対話することを重視しており、教育指導員が一方的に話すのではなく利用学生が発言する機会が多く設けられています。



▲オンラインセッションの様子

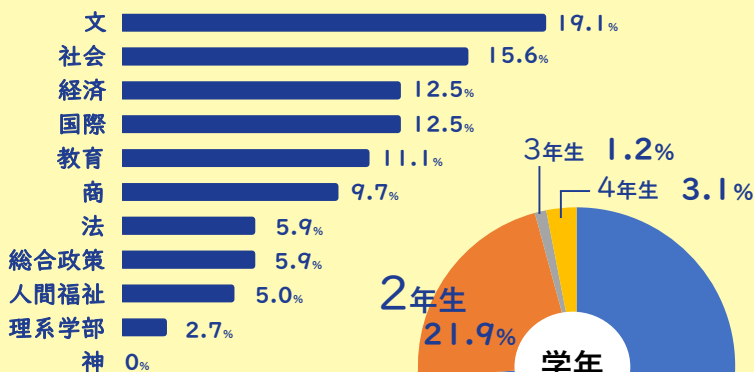
2021年度春学期ライティングセンター利用動向

学年・学部別利用状況

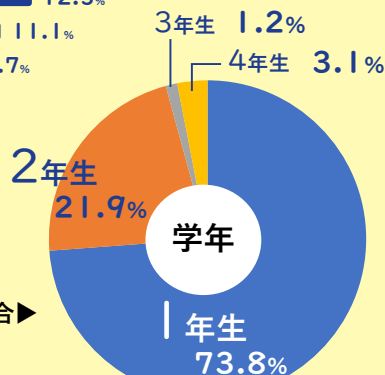
文系の学生を中心に、様々な学部からの利用があります。文系学部では相対的に論証型リポートが出される科目が多いためとも考えられ、そうした科目の正課外での支援の場となっています。学年としては、1年生の利用が最多です。全学共通科目のリポートを持って来る学生が多く、授業外における学習支援の場ともなっています。

また、全体の35%の学生がリピーターとして再度来室しています。ライティングセンターで支援を受けた文章を自分で修正し、さらに文章を良くしたいと思う学生が多く来室していることがみて取れます。

▼学部別利用者割合（計424名）



▶学年別利用者割合（計424名）



利用学生が抱える悩み

4月～5月▶文章執筆の基礎に関する悩み

アイデア段階・執筆初期のレポートの相談を希望する学生が多く、段落構成や引用の仕方など、文章執筆の基礎について不安を抱えています。

これに対しセンターでは、ブレインストーミングから一緒に行かない、段落と段落の関係性の検討をするなど、形式的な事項を指導しつつも、内容面についても対話を深め、**学生自らが考え、文章を修正していくことを促しています。**

6月～7月▶執筆途中のレポートに関する悩み

レポートの提出締切日が迫ってくるため、執筆途中やほぼ完成したものを持って来る学生が多いです。書き始めたところで内容がまとまらないため、どのように展開していけばよいかアドバイスを求めるものや、一度第三者の目で文章の論理が通っているか確認してほしいものなど、提出直前に、質の高いレポートにしたいという気持ちが見受けられます。

これに対しセンターでは、**論理展開の方法**について対話しながら検討し、その際、**引用の示し方など形式的部分に関する支援**も行なうことで、最後まで文章の説得力を高めるための支援を行なっています。

○利用学生が持ち込む文章の段階

アイデア段階	33.5%
構成はできている	10.2%
執筆途中	29.1%
ほぼ完成	27.2%

(回答者数：430名 予約時点で回答)

利用者の満足度

アイデア段階のレポートを抱えて来室した学生からは、相談を通して「**どういう展開でレポートを書いていったらよいか明確なイメージが持てた**」という意見が多くあり、執筆初期の段階のレポートを抱える学生は、「**レポートの基本的な形式や書き方のポイントを丁寧に説明してくれたので分かりやすかった**」と述べています。

ほぼ完成したレポートについては、「**文章の飛躍があるところを指摘してもらって助かった**」との意見がみられました。このように、センターではさまざまな執筆段階での相談に対応し、利用学生も相談に対して満足していることがわかっています。

○セッション後アンケート結果 (回答者数：418 回答率98%)

5段階評価平均点

今回のセッションに満足しましたか？	4.80
セッションを担当した指導員は初めに決めた目的通りにセッションを進めてくれましたか？	4.83
セッション後にやるべきことは明確になりましたか？	4.86

○利用学生の声

- ・大変丁寧に教えていただいた上に**話しやすい環境**を作っていただけて助かりました。
- ・レポートをどのように書き進めていけば良いのか、**自分は何をするべきなのかが明確**になって、レポートを書く**気ができました**。
- ・自分でも**予期していなかった改善点**などをみつけてくださり、本当に助かりました。

学生の文章Before & After

以下は、実際に学生が持参したレポート課題の文章です。この課題は、200字で主張や根拠を取り入れながら書くことを練習するためのもので、最終稿を提出する前にライティングセンターにて支援を行ないました。支援前と支援後のレポートを比較します。

「どこかの国の話ではない」

米国同時多発テロ事件が起こってから今年で20年になる。どのくらい日本人がああ事件の情景を記憶しているだろうか。あの事件は国際テロ組織が米国の中枢機関を狙い撃ちするために行われた。しかし、多数の民間人の命を奪う結果となり、日本人も24人含まれている。従って、テロは日本にとって無関係の話ではないのだ。20年前の最悪のテロ事件が今後起こらないようにするために、国際的な取り組みに日本も積極的に関わる必要がある。

日本のテロ防止に向けた情報利用

日本のテロ防止対策のために国が情報を収集し、国民に対して情報を発信することは有効である。内閣府の世論調査では、回答者の51.5%がテロ防止に対する情報収集の強化が効果的だと思う、と答えた(内閣府、2015:p.3)。日本のインターネット普及率は高く、国民が手軽にテロ防止に関する情報を得ることも可能だが、誤った情報も多いため正確な情報を得ることが難しい。それゆえ、国が正確な情報を収集し、国民に発信することが重要である。

参考文献

・内閣府大臣官房政府広報世論調査担当(2015)「『テロ対策に関する世論調査』の概要」(<https://survey.gov-online.go.jp/tokubetu/h27/h27.pdf>) 2021年5月4日閲覧

根拠となる参考文献や主張を支える論拠が提示されておらず、**自分の考えが先行するかたち**となっています。また、レポートのタイトルからは内容が想像できない状態です。さらに、行頭が2文字空いており、形式的な面でも改善を要する点がみられます。

論拠をよりどころにした考察をし、タイトルも本文の内容に適したものに変わることができました。参考文献に関しても、字数のぶら下げや改行位置はまだ修正の余地があるものの、適切に提示されています。

対面指導を担う教育指導員とは

教育指導員の役割について

対面指導を担う教育指導員は、本学の大学院生で、主にライティングセンター専任教員によるライティング科目である「論文執筆のためのアカデミックライティング」を受講した学生の中から選考を経て採用されます。**研修を通して教育指導員としての研鑽を重ねながら**、ライティングの相談に応じています。

教育指導員という名称ですが、一方的に指導するよりも書きたいことを相談学生から引き出し、対話することにより書き手の成長を促す方針をとっています。



教育指導員に対する研修

採用後は、以下のような研修を経たのち、実際の対面指導を担当しています。

採用時研修	ライティングセンターの理念や教育指導員として気を付けるべきポイントなどを学びます。
観察研修	先輩教育指導員が実施する対面指導を観察し、気づいた点などをまとめ、よりよい支援の仕方について議論します。
実地研修	先輩教育指導員がサポートに入りながら、実際に対面指導を担当します。その後、スタッフから指導について第三者目線でのフィードバックを行なっています。
全体研修	対面指導が全て終了した学期末に、教育指導員全体で学期の間に実際に行なった対面指導について振り返り、新学期に向けたよりよい対面指導のあり方について議論します。

こうした研修体制のもとで一人前の教育指導員として育成され、実際の現場に立っています。

ライティングセンター対面指導及び開講科目を学生にご案内ください

●対面指導●

ライティングセンターでは、学生の皆さんの文章作成をサポートします。授業のレポート課題や卒業論文に対して、形式的な面での支援が必要な学生に対する指導を行なっています。

対面指導の予約は、kwicから可能です。もしくは右下のQRコードからアクセスしてください。また、writingcenter@kwansei.ac.jpまでご連絡いただけましたら利用案内チラシなどお送りすることも可能です。



●授業科目●

「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」（大学生）

レポート課題に取り組むことに対して不安を抱えている大学生や、レポートの書き方を体系的に学びたい大学生を対象とした科目です。20名程度の少人数制で、それぞれの学生が執筆した文章に対して、何度もフィードバックが行なわれます。

「論文執筆のためのアカデミックライティング」（大学院生）

大学院に入学してこれから論文を執筆する大学院生や、論文の書き方について改めて学び直したい大学院生を対象とした科目です。この科目では、論文を執筆する際に必要となる、基礎的な知識・技能を習得することに重点を置いています。また、少人数制であるため学生同士での意見交換を通して文章を改善することを学ぶ機会もあります。なお、夏休み・春休みには集中講義も開講されます。

アカデミックな文章の執筆に悩んでおられる学生がいらっしゃいましたら、ぜひご案内ください。

